

べし、依てこゝに略しぬ、

杉よりも枝よこに榮える心あれば、植立てよく、春彼岸までは枝をきり取べし、一度打ば跡は打べからず、下草は毎年六月より明三月までにかり立、その草は根におくべし、

〔甲斐國志百二十三物産及製造〕富士裾野丸尾檜 良材ナリ、西湖本栖精進諸村ノ里人嶮僻ニシテ重持ス

ルコト不能樽木桶具間切二三寸角割貫割木梯子短三四間皆裂木而造之機梯ノ具皆檜ヲ以テ

造ル、槍ノ柄、木刀ノ類ハ檜ヲモ用フ、擔棒ハ藤ノ樹曰杵ニハ峯榛、鋤農具ノ柄ハ花ガラ、木鉢ハ

ブナノ樹トテ、銘々其用ニ堪ヘタル木ヲ良シト云々、北山筋黒平村モ同之、奈良田村ハ山折敷ニ

用飯櫃曲品大小本州ニ舊キ器物アリ、今多クハ不用之、箕、木履ノ類ヲ造ル、

〔日本書紀神代〕一書曰、素盞鳴尊曰、韓郷之島、是有金銀、若使吾兒所御之國、不有浮寶者、未是佳也、乃

略○中 拔散胸毛是成檜略○中 已而定其當用、乃稱之曰略○中 檜可以爲瑞宮之材、

〔古事記上〕於是須佐之男命略○中 爾問其形如何、答曰、彼目如赤加賀智而、身一有八頭八尾、亦其身生

羅及檜、楹、

〔枕草子三〕木は○中

ひの木、人ぢか、らぬ物なれど、みつばよつばのとのづくりもおかし、五月に雨のこゑまねぶら

んもおかし、

〔夫木和歌抄二十九〕家集

かみ山の岩ねのひはら。苦むして木ずゑもまろくとしふりにけり

〔書言字考節用集六〕生植コトカシハ側柏コトカシハ之類、今按、支那松柏、

〔萬葉集十六〕有由ナラヤ綠井カハシ雜歌フタオモ、誘倭人歌一首

奈良山乃兒カクニモ手柏カクニモ之、兩面爾左毛カクニモ右毛カクニモ倭人之友

兒手柏本朝俗斥斥側柏云爾、又謂トナ椽トナ爲トナ兒手柏、

僧正行意

側柏